



私にとって土方巽は舞踏の父であり大野一雄は舞踏の母です。東京生まれの私が、舞踏を求めて東北に暮らし、半世紀以上過ぎました。土方巽先生との出会いがきっかけでした。東北の闇から生まれた、純粋な光の宿る、強い眼差し。古い日本の時代の懐かしい風貌、秋田訛りの鈍色の声。そこから生まれる言葉と身体の雷鳴のような空間を何にたとえればよいのでしょうか。私たちの置き忘れた原初の、風土の静けさと荒々しさ、魂の型がありました。そして、大野一雄という慈母のような存在。二つの魂を思えば思うほど、私どもの舞踏は、死者と万象の光に彩られ、降りてくる、慈光となるのです。

慶應義塾大学日吉キャンパス
223-8521 横浜市港北区日吉 4-1-1
東急東横線・横浜市営地下鉄グリーンライン 日吉駅下車

お問合せ | 慶應義塾大学アート・センター
108-8345 東京都港区三田 2-15-45 Tel. 03-5427-1621
<http://art-c.keio.ac.jp/> ac-butoh@adst.keio.ac.jp

Keio University (Hiyoshi), RAIOSHA
4-1-1 Hiyoshi, Kohoku-ku, Yokohama, Kanagawa 223-8521 / 1 min. walk from Hiyoshi station
Open to everyone. Admission free. No booking required.
Contact: Keio University Art Center / ac-butoh@adst.keio.ac.jp

主催 | 慶應義塾大学教養研究センター日吉行事企画委員会 (HAPP)、慶應義塾大学アート・センター コーディネーター | 小菅隼人 (慶應義塾大学理工学部教授) 運営 | 慶應義塾大学アート・センター 協力 | ポートフォリオ BUTOH 照明・音響 | 曾我傑

雪雄子舞踏公演

時を超え、空をひっばる。

白鳥が帰るよー。

白く白い裸身が宇宙を揺らす

「め」の宙の星々の祝祭

駆け巡る精霊たち

雪雄子

1970年に土方巽に出会う。1972年に大駱駝艦の創設に参加する。1975年北方舞踏派を結成し、山形県の出羽三山山麓へ移住し稽古場を構え、土方巽の高度な精神性と身体性を探求し、東北の風土を舞踏に生かすことに努める。その後、北海道の小樽や東京で舞踏活動を続け、1985年には土方巽の振付による作品「鷹さしき」で女鷹を踊る。1992年のビショップ山田演出の「蝦夷面」では、北国の生命力を表現する舞踏家として高い評価を受ける。翌1993年には北方舞踏派から独立して青森県津軽に移住。ここで原初の命と出会い、縄文の世界を表現する舞踏を発表している。1988年にサンフランシスコで発表したほか、パリ、ウィーン、ワルシャワ、サンクトペテルブルクなどでソロ作品を発表している。

2018年 6月8日(金) 18:30— [開場 17:00]

慶應義塾大学日吉キャンパス 来往舎イベントテラス
入場無料 事前申込み不要

Yuki Yuko Butoh Performance *Secret Radiance*
Friday 8 June 2018, 18:30 start, doors open at 17:00
Keio University (Hiyoshi), RAIOSHA